

## 令和3年度 長野市消防委員会（第2回）

日 時 令和3年8月20日（金）午後3時00分から午後4時27分まで  
場 所 中央消防署 4階会議室  
出席委員 原田会長 他10名（5名欠席）

### 1 開会（午後3時00分）

《宇都宮課長補佐》

只今から、長野市消防委員会を開催させていただきます。議員の皆様には、お忙しいところ、また、お足元の悪い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。前回に引き続き進行を務めさせていただきます、消防局総務課の宇都宮です。よろしく願いいたします。まず初めに、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

～資料の確認～

それでは、次第の方をご覧ください。これより開会させていただきます。本日の委員会でございますが、5名の方が欠席ということで御連絡をいただいております、出席委員11名、欠席委員5名となっております。条例第6条第2項の規定によりまして、過半数の委員の方が出席しておられますので、会議については成立するという事となります。

また、長野市付属機関等の設置及び運営等に関する指針の第2章第8の規定に基づきまして、本日の会議は公開とさせていただきます。後日、会議概要については、長野市のホームページに掲載するので、御承知おきをいただくようお願いいたします。それでは、次第の方、進めさせていただきます。次第の2長野市消防局長並びに長野市消防団長からご挨拶を申し上げます。初めに消防局長お願いいたします。

### 2 あいさつ（午後3時02分）

《佐伯長野市消防局長》

消防局長の佐伯でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。また、平素皆様方におかれましては、消防行政に対しまして、格別のご理解ご協力をいただきますことに心から御礼申し上げます。また、本日もお忙しい中、お集まりいただきまして、消防団組織の検討に際しまして、ご尽力をいただいておりますことに重ねて御礼を申し上げます。

さて、市内におきましては、先週の12日から継続した雨が降りまして、箱清水では、15日の23時までの72時間に、降水量が172ミリというような形で、これは、1976年1月の統計開始以来の最高値を記録したようでございます。このような状況を踏まえまして消防局では、土砂災害、また河川の氾濫等の災害危険が危惧されましたので、24時間体制で警戒本部を設置いたしまして、対応をいたしました。この間、記録的な降雨に起因いたします119番通報に関しましては、小規模な土砂崩落や河川敷内での危険行為への注意喚起のようなもので、幸い人的な被害はございませんでした。他都市では記録的な降雨量によりまして、大きな被害も発生しておりますので、今後とも適切な現状把握と予測情報などを収集いたしまして、迅速的確な対応をしてまいりたいと思っております。

次に記録的な降雨の前には、大変暑い日も多く続いた中、熱中症に関わる救急搬送の状況でございますけれども、特徴といたしましては、昨年7月の1か月間では12件の搬送でございましたけれども、本年7月は52件というような状況でございました。なお、8月中旬現在におきましては、熱中症患者の搬送に関しましては、全体的には昨年より下回っている状況でございます。また、傷病別的には、やはり半数以上の方の入院が必要となる、中等症以上というような形でございまして、年齢的には全体の6割以上が65歳以上の方々というような状況でございます。救急件数の全体といたしましては、昨日現在、11,683件出動いたしましたして、1日換算にいたしますと平均50件というような状況でございます。前年比といたしましては、773件の増加というような状況でございまして、内訳といたしましては、急病が全体の65%というような状況、また65歳以上の搬送が全体の67%を占めているような状況でございます。

また、新型コロナウイルス感染症の関係では、感染者数が急激に増加をする中、陽性患者の入院者数も合わせて調査をしてございまして、適切な治療を施すため、病院間の移動が必要となり、その際に救急車で対応事例を行っている状況でございます。また、首都圏では救急出動に際しまして、受け入れ病院が決まらずに搬送までに長時間を要したというような事例も報道されてございますけれども、長野市消防局といたしましては、各関係機関連携のもと迅速的確な救急業務を行ってまいりたいと思っております。

次に、火災の概要でございますけれども、昨日現在で消防局管内では、火災発生件数は72件というような状況で、前年比同数というような状況でございます。内訳といたしましては、半数の36件が建物火災でございまして、そのうち13件が全焼火災となり、5名の方の尊い命が奪われているような状況でございます。そのうち4名の方は65歳以上の方々というような状況でございました。なお、7月8日に入りまして前年比増加というような状況になっております。8月22日まで夏の特別出火防止運動が展開してございますけれども、その後、9月15日からは高齢者を火災から守る運動等を展開いたしまして、火災発生件数抑止のために努めて参りたいと思っております。次に、前回の委員会にも触れましたけれども、静岡県熱海市での土石流災害に関しましては、7月12日緊急消防援助隊として出動いたしまして、9日間の活動を経て7月の20日に任務を完了し、全員隊員が無事戻ってきてございます。後ほど概要をご説明させていただきますけれども、非常に暑い中、粘土質の土砂を手作業で除去しながらも活動に関しましては、大変過酷でしたけれども、73名の隊員は、安否不明者を1日も早く家族に会わせるというような気持ちのもと、頑張っていたいてきてございます。

結びにあたりまして、新型コロナウイルス感染拡大という見えない敵との戦いが長期化する中、記録的な降水量など、いつどこで何が起こるか分からないような状況になってございます。我々は地域防災の要でございます、消防団の皆様と更なる連携強化を図るとともに、危機管理意識を高め引き続き市民の皆様からの安心安全の付託に力強く答えてまいりますので、皆様方の御支援、御協力をお願い申し上げます、整いませんが、御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

《宇都宮課長補佐》

続きまして中村消防団長お願いいたします。

《中村長野市消防団長》

長野市消防団長の中村でございます。消防委員の皆様方にはお忙しい中、お集まりをいただき大変ありがとうございます。また、平素より我々消防団のために深い御理解、御支援、御協力をいただいておりますことを改めて感謝を申し上げます。先ほど局長からお話がありましたとおり、お盆の間中、雨にたたられ千曲川、犀川増水ということで、我々消防団も各地域ブロックで、土砂災害警戒また河川の水防警報等の警戒、要支援者の援助、そういった消防団活動を行ってまいりましたけれども、幸い大事に至らず、市外の岡谷はじめ亡くなられた方には御冥福をお祈りするとともに、これからも我々消防団、これから秋雨前線また台風到来という、非常にまだまだ猶予ならない期間も待つわけでありますけれども、十分気を引き締めて、今後の消防団活動に邁進して参りたいと思っております。また、この後お話もできるかもしれないのですけれども、我々消防団、今回皆様方に諮問いただいております機構改革等以外にも、今、消防団員の負担軽減等についても団本部で検討委員会等を立ち上げまして、できるだけ居心地のいい消防団、そういったものを目指していこうと、検討を始めているところであります。またそんな中で、消防団の制服につきましても、通常長野市消防団は乙種といい、前回の時は皆様にも見ていただいた法被で出ていますが、今回、長野市の消防団員の制服というものを見直そうと、基本的には、活動服一本でいいのではないかと、今、検討中であります。ただし、歓呼等につきましても、今まで通り、法被ということでお願いをしていくようにはなると思っています。今日、我々幹部が着てきているのは、甲種制服といいまして、これは、甲種制服の夏服で、消防団の制服でありますので、御理解をいただきたいと思っております。少し余計なことを申し上げましたけれども、前回の会議の後、多くの皆様から書面会議等で御意見いただきまして、本当にありがとうございます。審議時間も非常に短いわけですが、できるだけスムーズに御審議をいただき、とりまとめをよろしくお願ひしたいと思っております。

結びに本日出席の皆様方の御活躍を御祈念申し上げて、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

### 3 熱海市土石流災害における活動について（午後3時13分）

《宇都宮課長補佐》

続きまして次第の3報告事項となります。熱海市土石流災害における活動について、消防局警防課長から御説明いたします。

《宮沢警防課長》

警防課の宮沢でございます。私から静岡県熱海市の土石流災害に伴う、長野市消防局の対応について、ご報告させていただきます。

～資料に基づき説明～

《宇都宮課長補佐》

只今説明ございました件につきまして、何かご質問等ありますでしょうか。

全委員：質問等なし

それでは、次に進めさせていただきます。続きまして次第の4議事に移させていただきます。なお、議長につきましては、条例の規定に基づき会長に議長をお願いしたいと存じます。原田会長よろしく願いいたします。

#### 4 議事（午後3時19分）

##### 諮問事項 「長野市消防団の組織及び処遇について」

###### ・答申素案について

《原田会長》

それでは議事を進めたいと思います。協議事項の長野市消防団の組織及び処遇について前回事務局から、市長からの諮問及び消防団の現状等について説明をいただき、また、各委員の皆様方から意見をいただきました。過日、急遽ではございますけれども、書面会議という形で答申の骨子案について御審議いただいたところ、大変多くの意見を頂戴しました。大変ありがとうございました。本日は、書面会議での意見を踏まえ答申素案について御審議をいただきたいと考えております。

審議の前に、今後の日程等について、このコロナ禍ということも含めてですね、いろんな工夫をしてやっていかなければいけないということでございますので、日程について改めて確認をしたいと思いますので、事務局から説明をお願いいたします。

《南島課長補佐》

事務局警防課課長補佐の南島です。よろしく申し上げます。これまでの振り返りと今後の日程について、改めて確認をさせていただいていただきます。前回、7月12日に第1回ということで、こちらの方で諮問までの経過、消防団の現状、諮問内容について御審議をしていただきました。多少急ぎ足でしたので、充実した審議を行うため、急遽でありますけれども書面会議という形で、第1回でいただいた意見を元に、答申骨子案という形で整理をさせていただいております。これに対しまして、書面会議では幅広い意見をいただきましたので、これに基づいて素案の作成をしております。本日は、こちらの書面会議でいただいた意見、それから素案について、後ほど説明させていただきますので、審議をお願いしたいというふうに思います。また、最終となります、次回につきましては、書面で答申案の審議という形を取りたいと思っております。こちらからの説明は以上となります

《原田会長》

ありがとうございました。日程等について説明をいただきましたが、皆様、今のような形でよろしいでしょうか。御理解をいただきたいと思います。先ほど申し上げましたとおりコロナ禍ということで、本来でしたらお集まりいただいて意見をいただくのが、大変いいこと

だと思いますが、御案内のとおり、長野市レベル5というようなことをございます。審議もコロナ禍で書面会議にしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、対面での会議は本日で最後という中でございますので、ぜひ忌憚のない意見をいただきますようお願いいたします。

それでは、事務局から本日の審議事項について説明をお願いいたします。

《南島課長補佐》

引続きまして説明をさせていただきます。資料の方を御覧いただきたいと思います。

～配布資料に基づき説明～

《原田会長》

はい、ありがとうございます。事務局からは書面会議での意見に加え、答申素案について御説明いただきました。書面会議で意見提出された委員さんから補足等あれば、ぜひお願いしたいと思います。項目が組織の見直し、大規模災害の関係、それから処遇の関係ということでございます。3つに分けて、それぞれいただければと思いますが、いかがでございましょう？

では、組織の見直しのほうですかね、諮問1という右上に書いた資料の中の下段のところ、委員さんからいただいた意見なんですけれど、補足ということで私のほうで指名させていただければと思います、A委員さんいかがでしょうか？

《A委員》

諮問1の将来にわたってというところでよろしいですか。

《原田会長》

そうですね。消防団が検討している定員数と組織の見直しについて、書面会議の意見についての補足ということで、御意見をいただいたことを含めて、何か御提言や御意見をいただければと思います。

《A委員》

見せていただいた書類の中において、定員数とか組織に対しての案4ですね。私はあれでいいかと思います。またここにも書きましたけど、Aブロックについて、ひとつにするという希望の中において、ひとつでいいのか。そうなった場合の組織的な伝達とか、どうなってくるかなという心配と、それと今、積載車が出てきましたが、積載車は今までどおり各1台ずつそのまま残してもらえるのか、分団ひとつにしてしまうのもので、積載車は一つしかなくなってしまふのか、その辺のところ少し気がかりなところでございます。それと、本部の本部員の数ですが、本部員の数をかなり少なくしています。それはいいかなと私は思います。

今までの経験の中から、私が体験した後に、本部員の数がかなり増えております。今まで活躍して定年ではなく、辞める方を本部員に残して確保してもらうやり方で、本部員の数が

かなりになっておりますが、それが果たして、今まで分団長として活躍して、ある程度の地位にいた人が本部員になって平団員になって、残って活動してもらうのがいいのか悪いのか、今までひっかかっておりました。そんな中におきまして、今回、大規模災害の中における立場を変えての消防団員というのは、いいことではないかな。そんな立場で活躍していただけるのが、大変いいことではないかなと思っております。以上です。

《原田会長》

ありがとうございました。本部員のことにつきましては、御賛成の御意見等いただいておりますが、その前段のところのAの部分の積載車の関係の御心配をいただいておりますが、これは答申の中で具体的にAということで、全体的な消防団の装備の関係の部分で御心配というところもあるかと思えます。具体的に答申の中で記載する、記載しないというのはおいておいてですね、今の御心配等について、何か御説明等あればお話しいただければと思えます。

《中村団長》

それではすいません。消防団長としての立場でお答えをさせていただきます。今、A委員さんから御指摘があったAブロックがひとつの分団にしたいという意向につきましては、先ほど懸念されたとおり、組織体制でいかどうか、今、再検討しております。その中で、支障のない分団運営ができるようにということを大前提に言っておりますので、方面隊・方面副隊長等含めて、隣接ブロック等の応援体制も勘案しながら、中条分団統合問題については検討して、今年度中には、ある程度方向性を示して、5年度からのスタートができるようにしていければと思っております。

また、車両等につきましては、当然今回の機構改革の中で班編成等も変わってきますので、必要班編成がどのように変わるかによって、当然、車両の台数等も変更になる予定であります。ただ、中条だけでなく、中山間地等では積載車・ポンプの数が相当あるというのはご存じのとおりですけれども、10年くらい前ですか、火災があるとどうしても、自然水利に頼らざるをえないということで、連結送水といいますか、いわゆるポンプをつないで水をあげるという、2キロ3キロポンプを10台15台くらい使って水を上げなければならないという地理的条件がありますので、今まで、長野市では1分団1ポンプといいますか、1積載車体制をとっておるのですが、特に中山間地域については、台数の削減等は当然ありますけど、その辺のところは、地域実状を見合わせながら、検討して適正な台数配備ということでいきたいと考えております。あと、本部員等については、今後、定数をきちっと決めて、委員さんのほうから言われた通り、適正な人数での団本部員体制を構築していくように、今、検討を進めるところであります。次長何かありますか。

《宮沢次長》

ポンプの数だけではなくて付随する施設の詰所とか、器具置き場とか、警鐘楼もありますので、消防団皆さんが進めている組織の見直し等が終了しましたら、そちらの適正化につきましても、消防団の皆様方としっかり議論させていただきたいと思えます。以上です。

《原田会長》

ありがとうございました。組織の見直しの部分で、団員募集で非常に苦勞されていると思います。その中でですね、消防団活動について、社会的理解を深めるそのためのPRが必要というようなことで、ご意見をいただいた中にも、PRについて積極的に進めるというご意見もございました。これについてさらにご意見を頂ければと思うのですが、B委員さんいかがでございましょうか？

《B委員》

私も書面の意見ということで、次世代へのPRということで書かせていただきました。やはり担い手が不足して、じゃあ誰かというのはなかなか今後、難しくなってくるかと思いますので、長期的に長い目でみて、こういった活動に対して、御理解いただいていくということが大切なのかなと思いますし、個人的な話ですけれど、私、子供が保育園にいるのですけれども、消防士さんとか消防車とかがきて子供たちが興味をもったり、それに向かって夢を持ったりするものですから、そういったような、消防団の活動に対しても身近に感じていただけるような活動を進めていってもらおうと、消防団は身近だなとか、知っていただける機会が増えると思って意見を出させていただきました。

《原田会長》

ありがとうございました。他にございますか。何か御発言ですか。はい、どうぞ。

《中村団長》

今、非常にありがたいご意見をいただきました。消防団のPRということでしたが、私自身も痛感しておりまして、私が団長に就任した時に、消防団見える化というスローガンを掲げて、消防団員にお願いしてまいりました。そして、団員以外の地域のみなさんに理解していただく方法は何かということで、とりあえず、今年度末を目途に、第一号となる消防団の広報誌を作成しまして、地域の皆さんと自主防のみなさん、そんなに枚数作れませんが、広報誌を作りまして、皆さんに消防団のPRをしていきたいと考えております。小学生等子供さんへのPRというお話もされていましたが、まだまだ数は少なく1校だけですが、その小学校の保護者さんが非常に協力的で、女性団員とともに1年に1度ですが、消防団との交流会みたいな形で消防団を理解していただいております。御意見もありましたけど、女性団員を増やして、こういった取り組みを各地区で少しずつでも増やしていただければいいかな、と考えております。また、今後継続して取り組んでいくつもりでおります。よろしくお願いたします。

《原田会長》

ありがとうございました。今女性団員のお話もでました。御意見の中には女性団員について大変貴重な御意見をいただいたております。また、学生の活用という切り口でのご意見もあったかと思いますが、C委員さんそのあたりいかがでしょう？

#### 《C委員》

私がイメージした「学生」というのは、次に社会に出る世代である大学生です。長野市には、複数の大学があり、その点では他の自治体に比べ非常に恵まれていると思います。なかなか、その通常の消防団の活動となると、危険を伴うイメージがあるのでハードルが高いのかなと思ったのですが、啓蒙活動というのか、みなさんがやられているPR的な活動においては、特に若い世代、先のお話にありましたけれども、次世代に向けた活動というのは、やはり年の近い方から聞く内容というのがストンと入ってきて、PRをしていくうえで消防団活動の内容に、より理解を深まって、そういうことをやってみようかな、という発想になると思ひまして記載をさせていただきました。先ほどお話をかがっている中で思ったことですが、今回の豪雨で、私も個人的に長野市の防災ナビのアプリを落とさせていただいて、結構、川の状況どうか、と見せてもらいました。もし、可能であれば、例えば、防災ナビでせつかく市民と防災の情報つなぐツールがあるので、そういった中でも、消防団募集していますとか、こういう活動がありますとか、こういった勉強会があります、のようなページか、そういった通知をすることがあってもいいのかな、と思ひまして、追加となりますが御意見させていただきます。

#### 《原田会長》

大変貴重な意見ありがとうございました。今、本当に団員募集について特効薬がない中で、あらゆる手段を活用して効果的にと、言葉では言うんですけど、では具体的にとなったときに難しい。SNSなど、私も若い方を引き込むにはこういったツールを使わない手はないんじゃないかと思うわけでして、その辺の取り組みもご検討いただければ大変ありがたいし、答申の方にもそのPRの部分については、盛り込ませていただき、また、それについての検討も進めていただければと思います。組織の見直しに全般について、ほかの委員さんからいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは続いての項目で、大規模災害の機能別団員の御意見をと思ひます。

この点について御意見を頂ければと思ひますがいかがでしょうか。私の方から指名させていただきます。D委員さん。

#### 《D委員》

はい、では私の方から大規模災害時ということで、先ほども熱海の方に災害派遣をしてきたとお話を聞きましたが、災害現場の方は緊急消防援助隊ということで、だいぶ消防力も強化されて、現場に駆けつけてくれる体制が整ってきていると思ひました。また、このような災害があれば大きな組織がバックアップしてくれるとの思ひでおります。消防団員という制度について、基本的には団員として現場に行く人、そうではないソフト面といひますか、災害対策、避難所対応等々、仕事の任務は多岐に渡りますが、基本的にはそういう制度といひるのは、国で考えているとおりに、とてもいい制度だと思ひました。ただ、これが実際に運用面にいくと、また違った部分で、しっかり運用していかないと、通常の消防団活動から災害についても、二つに割れることがあつてはいけないので、実際にこの制度を確立するのに



はしっかりと検証しながら、いい制度を導入していただければと思いました。この部分は、机上で考えている部分と実際との部分との違いが出てくる場面もあると思うので、ぜひ、団長さんの方にまとめていただいて、しっかりとした制度を導入していただきたいと思います。以上です。

《原田会長》

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。今も、D委員さんの御意見の中にもせっかくいい制度なので有機的、効果的なものになるように、多分導入の時にはですね、なかなか全団員さんまで共通認識を図るといふ部分の下地ならしといいますかね、これの御苦労があらうかと思いますが、それは労を惜しまずしていただきたいとお願いしたいと思います。ポツ（・）の3つ目のところに事前に決めておく必要があるという表現で、意見をいただいています。そのような趣旨のご意見かと思いますがよろしくお願ひいたします。

この部分についてよろしいでしょうか。

それでは次に進めさせていただきます。処遇についてでございます。

手当等についての内容にならうかと思ひますが、これについて意見をいただきたいと思ひますがいかがでしょうか。同様に私の方から指名をさせていただきます、E委員さんよろしくお願ひいたします。

《E委員》

はい。私の方で報酬の見直しについては、基本的にはしていかないといけないとされているのですが、やっぱり団員数が他自治体に比べて非常に多いという状況、地理的な状況もあり、また、過去の歴史もあるのでやむを得ないこともあるのですが、国の示している方針に合わせることで、そこの数の見直しをしないと、報酬額だけ突出する様な事になってしまうので、そこは全体の数、適正配置という言葉が正しいのか解りませんが、一定程度の数字に収められるように、そうすることによって、消防団員の数の確保もしやすくなると思ひますので、ぜひ取り組みは継続して、今すぐというわけではなく、継続してぜひお願ひしてほしいと思ひますので、意見を書かせていただきました。以上です。

《原田会長》

ありがとうございます。まさしくおっしゃるとおりと存じます。基本的に皆様、委員さんたちも賛同しているという流れの中で、答申案に盛り込むということでございますが、ただし、様々な要因があつてですね、国が示しているからイコールということでは決してなく、長野市の事情もございまして、将来に渡つてのそういう検討が必要だと、具体的な文言も答申案に盛り込みながらですね、これについて委員会として答申案に織り込みながらというような流れでございましてかね。そんな形でみなさんいかがでしょうか。他にございましてでしょうか。

《A委員》

報酬について上げていただくというのはありがたいことです。今まで、消防団とすれば、各分団の設備、そういう部分に力入れていただいて、間に合わせてもらった。このような中においてこれが終わって、今度は国から出動手当とか、年報酬を上げていただくというのはありがたいことだと思います。その中で、年報酬、今度は個人の方に入ると決まった中においては、しっかりと真面目に活動してくれる団員と、あるいは、事情があって出られないというのは仕方ないですが、団員であるけれどもなかなか出てこないという団員についても、やはり年報酬決まったなら払わなくてははいけない。または、退職金もですが、その辺をちょっと考えなくてはいけはないと思っております。やはり、同じ団員として一生懸命やる団員と、ほとんど出てこない形だけの団員と一緒に、しっかりやってくれる団員がどう思うか、非常にこれから考えていかなければいけないと思っております。以上です。

《原田会長》

ありがとうございます。実際に、机上ではなかなか表せない悩みと申しますか、そのような運営上のこともあろうかと思ったり、それぞれの活動の実態を考慮したなかでの公平感と申しますか、その部分についての担保というようなものは必要かと思っておりますが、ことお金のことにしまして、どのような決まりを作ってどのようにやるかというのは、今一概にすぐここでという、ことにはいかないもので、答申の案の中でも、また意見の中でもポツの最後のところですかね、記載をさせていただいていますが、意見として盛り込んでいければと、考えております。このような流れでよろしいでしょうか。

《A委員》

はい

《原田会長》

ありがとうございます。答申案の中で支給方法については国からの要請に基づき、個人への直接方法が適当ということで明記させていただきましたが、よろしいでしょうか。

全委員：意見なし

《原田会長》

それと、もう1つ分団運営費、これについては記載のとおり、内容については妥当性をしっかり、これはもう言わずもがなというところですが、しっかり明記をさせていただくなかで、真に必要な必要額を支給して、さらに検証、透明性をしっかり担保していただくというような書き方をさせていただいたところがございます。この辺についてもいかがでしょうか。報酬の関係、お金の関係、大きな変化ですが、委員さんの方から何かよろしいですか。

《D委員》

提言部分に書いてある分団運営費について、これも2・3行書いていますが、このとおりだと思います。ぜひ、分団長さんになられた方が、自腹を切って何かするようなことが無いように、しっかりと運営費をきちんとお支払いできる体制を組んだり、ポンプ操法の練習とか大変になると、非常にお金がかかるので、費用は一律、きちんとしっかり支払っていただけるような体制を取ったり、また、会計については、今、IT化がとても進んできて、会計システムみたいなものを入れて、分団できちんと収支ができるようなものを、上手く全部段取りしてやっていただけるのも大事だと思いますので、ぜひ考えていただければと思います。以上です。

《原田会長》

ありがとうございました。報酬等につきましては、報酬だけではなくやはり、団員募集や定数、組織体制の強化などと全てがつながっている問題かなという風に思っておりますので、お取り組みをお願いしたいと思います。御意見等については、おおむね伺えたかと思っておりますがよろしいでしょうか。

全委員：意見なし

《原田会長》

それでは、ご意見のところにつきましてはこの程度にしまして、事務局説明があった答申素案についてでございます。答申素案の構成については、事務局の方から、「はじめに」から、「おわりに」まで流れをご説明いただき、内容についてもふれていただいております。今日みなさんに御覧をいただいたということで、この場ですぐというのも大変ですし、次回の書面会議までにご意見をいただく時間もございますし、その時でも構いませんが、今、このなかで感想、ご質問を含めて何かいただければと存じますが。いかがでしょうか。はい、お願いいたします。

《E委員》

素案の4ページの下の方ですが、サラリーマン化による時間の制約化と共働き等、ここに唐突にサラリーマン化と出てくるのですが、消防団がサラリーマン化になっているわけではないと思います。どこかにないかと思ったら、まとめのところの終わりの8ページのところに、サラリーマンとの非雇用者の占める割合が増えている、消防団の成り手がそうになっているということで、ここの諮問の答申の中に、唐突に、突然サラリーマン化が出ると、我々は話を聞いているのでいいですが、消防団がサラリーマン化していると捉えられないような書きぶりを、何か工夫していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

《原田会長》

ありがとうございました。そうですよね、そういう風に読んでしまうという、十分参考にさせていただいて検討していきたいと思います。他にはいかがでございましょう。事務局の

皆さんまだ時間はよろしいでしょうか。対面会議はこれで終わりということなので、せっかくなので、ご発言いただいている委員の皆さんにも感想も含めていただければなど、思っております。御指名をさせていただくので、御意見を頂ければと思いますが。最初にF委員さん、いかがでございましょうか。

《F委員》

本日会議に参加させていただきまして、前回いろいろ申し上げた意見をしっかり盛り込んでいただき、見直さなければいけない部分をしっかり見直していただいて、また、新たに出た意見に対しましても、答申の方にうまく盛り込んでいただいたということで、よろしいかと思えます。いずれにしても、大変重要な答申になるかと思えますので、今E委員さんが言った4ページのところ、文章の中にちょっとサラリーマン化の前のところを見ていて、消防団活動の理解をはかるとともに、という形になると思うのですが、文章のそういうのもしっかりチェックしていただいて、答申案を作っていただければと思います。以上です。

《原田会長》

ありがとうございました。続いてG委員さんいかがでしょう。

《G委員》

本当に何もわからなくて、この間と、今回出させていただいて、少しずつ、そうなんだ、と刺激を受けているところなので、本当にみなさんの御意見一つ一つが勉強になっております。ありがとうございます。

《原田会長》

ありがとうございました。H委員さんいかがでしょう。

《H委員》

この委員会で消防団の皆さんの待遇とか、色々学ばせていただいて、当協会も団長さんに出席いただいて、団員の加入促進をと、協力要請を常日頃、目や耳にしていたわけですが、状況からしても、これから先、若い人が減っていく中、やはり消防団の体制に、非常に難しさが、更に出てくるだろうなという中で、今回、この待遇改善という非常に大事な事だと聞いておりました。その中で、みなさんの意見で、財源という大きな問題もあったわけですが、前向きに団員のみなさんの活動することのやりがいがあるような、それに報いるとういうこと、それを評価してくださるということで、みなさんで前向きに地域の皆さんのためということで、団員活動にもつながるような雰囲気づくりも、大事なことだと思いますので、是非とも前向きに改善をお願いしたい。

また、当協会でも、各事業所に、団員の加入の運動ですか、そのようなことも協力できる活動を取り込めればと感じております。ぜひともすべてのものを前向きに改善しながら、また、将来に向けてということで、進められるようお願いできればと思っております。以上です。

《原田会長》

ありがとうございました。I委員さんいかがでしょうか。

《I委員》

そうですね。女性の参加ができるということは、私びっくりしまして、私の地区では、やはり男性が中心になっておりますので、女性が参加できるということを、もっと細かい内容とか、具体的に示していただけると、もっと参加しやすいのではないかと思います。

《原田会長》

ありがとうございました。J委員さんお願いします。

《J委員》

私もあまり消防団の活動内容については詳しくないので、知らない部分もたくさんありまして、この会議に参加させていただく中で、どんなことやっているのか知ってきたところですが、先ほど、団長さんがおっしゃられたように、やはりすべてにおいて活動内容等も募集等もそうですが、見える化をはかり、団員加入にむけてPR活動もやっていくようにしなければ、だんだん災害が増えている中で、消防というところで人員不足というわけにはいけないので、いろいろな部分で協力していける部分も、市民の皆さんに含めて、情報を出していくべきと思います。まとまりなく申し訳ございません。

《原田会長》

ありがとうございました。皆さん方から、大変貴重な様々なご意見をいただきました。全体通して何かございましたらお願いしたいと思います。はい、お願いします。

《A委員》

全体というよりも、提言部分の7ページの一番下のところですが、会計の透明性に留意することとなっておりますが、今まで数年、結構透明化されています。本当に我々団長・副団長の立場で、各分団の会計のチェック作業しておりますし、やっていると思います。この会計の透明性というのが透明にしなきゃいけないというのは確かですが、現在はかなり透明にしております、と思いますので、ここは少し書き方を考えていただければと思います。

《原田会長》

あの、確かに実際に日々、それに十分気を付けて律してやられてる方にしてみれば、まさしくそのようなことだと思います。また、一方の市民の目から見ると、それから今の社会情勢とか、世の中の流れからみるとこういう、公費等々についての取り扱いについては、どんなにしっかりやってもこの点については譲れない点だというような、住民の認識、市民の認識があると私は思います。十分にお気持ちはわかりますけど、これははずせないというのが私の見解です。ただし、まあ、これは私案ですけど、たとえば会計の透明性について、引き続き留意すること、とかですかね、そんなような一言を付け加えさせていただくような流れ

で、また事務局とご相談させていただくということで、御一任をいただければと思います。いろいろ申し上げて大変申し訳ないですが、他にはいかがでしょうか。

《D委員》

すいません。提言部分のところに、今のところだと個人への支給が適当ですという、適当という言葉、他にも結構、適当とか4ページの方でも適当ですと、答申する中でこういった文章がいいのか、効果的な分団数にすることで、しっかり文章にまとめていったほうがいいのか、下の方にも見直しを進めていただきたいという文章のまとめでいいのか、そのところの提言部分の言葉尻を、しっかり統一すればいいのかなど、ちょっと感じました。以前の提言部分が、短くてしっかりポンと示されているようなものがいくつかあったように、文章が非常に長いので、さっきのA委員さんではないでしょうが、そういった部分があんまり長いとまた同じこととなるので、精査していただけると、ちょっと感じました。

《原田会長》

ありがとうございました。また詳細については事務局としっかり調整させていただくということで、他にはいかがでしょうか。

全委員：意見なし

《原田会長》

それではですね。ご意見をいただくのはこの程度にいたしまして、本日の意見をふまえて答申案を作成していきたいと思います。答申案については、書面会議により承認をいただきますので、よろしく願いいたします。なお、対面での会議は、本日が最後ということでございます。書面会議での意見により調整が必要になった場合は、正副会長にご一任をいただいて、私どもで検討させていただくということで御了解をいただければと思います。よろしいでしょうか。

全委員：異議なし

《原田会長》

そのように取り扱いさせていただきます。本日の協議はここまでとさせていただきます。事務局から今後の予定についてお願いいたします。

《南島課長補佐》

本日のご意見いただきました答申案の方に反映させていただきたいと思います。特に、今回御意見いただきました、女性消防団員でありますとか、学生でありますとか、PRの部分、こちらの方はもう少し具体的な内容で答申案として、書面会議の方に諮りたいと思います。その際、もう一度御意見等いただければと思います。また、処遇の直接支給の関係でですね、適正な支給をというご意見もありましたし、透明性といったような言葉尻もございましたの

で、そのようなところの精査させていただきたいと思いますので、これで、答申案の方を作成して、各委員様の方に郵送でお送りしたいと思います。できれば、8月の末くらいにはお送りして、書面会議の形をとりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。なお、市長への答申の関係ですけど、9月21日の16時から会長から市長へ手渡しをというような形で準備を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上になります。

《原田会長》

ありがとうございました。以上で本日の予定はすべて終了とさせていただきます。これもちまして、議長の座を下ろさせていただきます。皆様のご協力ありがとうございました。

## **5 閉会（午後4時25分）**

《宇都宮課長補佐》

原田議長、議事進行ありがとうございました。委員の皆様におかれましては長時間に渡る慎重審議、また貴重なご意見等たくさんいただきまして、誠にありがとうございました。以上もちまして、第2回の消防委員会閉会とさせていただきます。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。